

データベース化し、時間・空間的な情報を得る手法を開発する。

継続課題（P9608－1）：

流域水文観測データベースの開発

担当教官：辻村真貴（愛知教育大学総合科学課程・助手）

新規課題（P9608－2）：

地理情報システムによる十勝地方の農業情報データベースの開発

担当教官：菊地晃二（帯広畜産大学畜産環境科学科・教授）

新規課題（P9608－3）：

日本列島の活断層の属性に関するデータベース研究

担当教官：宮内崇裕（千葉大学理学部・助教授）

○プロジェクト研究課題（P9609）：

地表面反射スペクトルデータの収集手法の開発とスペクトルデータベースの作成

担当教官：梶原康司

目的：リモートセンシングによる植生の物理量抽出の間接推定アルゴリズム開発に適用可能な反射スペクトルデータの収集手法を検討し、実測によるスペクトルデータ収集を行う。さらに収集したスペクトルデータを容易に利用できるような形でデータベース化する手法の検討を行う。

■ 2.2 一般研究

リモートセンシング・地理情報システムを主たる解析手段とする環境に関する研究，あるいはリモートセンシングの有効利用を推進するための野外観測やデータベースおよびセンサーの開発等に関する研究で，平成8年度は以下の研究が行われた。

継続課題1：

立坑を利用した準実スケール人工雲実験

担当教官：福山 力（国立環境研究所大気圏環境部・室長）

竹内延夫（千葉大学 CERE S・教授）

継続課題2：

LANDSAT／TM データと海上現場分光反射データによる大気散乱効果の推定

担当教官：香西克俊（神戸商船大学海洋機械工学講座・助教授）

竹内延夫（千葉大学 CERE S・教授）

新規課題3：

高度ライダー手法による対流圏エアロゾルの光学特性の定量的測定に関する研究

担当教官：杉本伸夫（国立環境研究所大気圏環境部・室長）

竹内延夫（千葉大学 CERE S・教授）